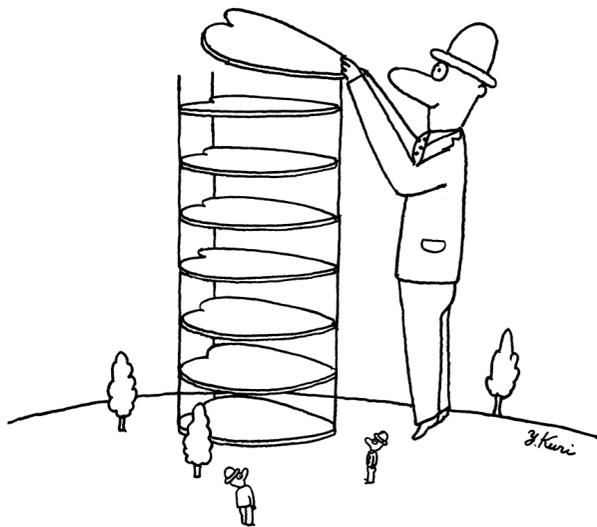


「
私たちが築くのは、
ほんとうです。」



今、人は地球について考えています。
そして、自然のことを想っています。
地球があって、緑にあふれ、人々が生活する。
私たちはそんな基本的なことから考えたい。
私たちのふるさと・地球にやさしい技術の確立。
熊谷組の変わらぬテーマです。

—人と地球の未来を考える—



熊谷組

本社 ● 〒162-8557 東京都新宿区津久戸町2-1 TEL:03-3260-2111
ホームページ URL <http://www.kumagagumi.co.jp>

安藤ハザマ



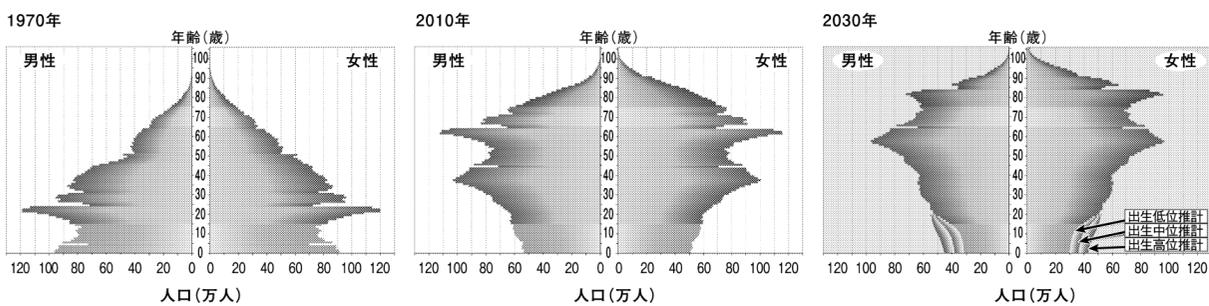
人と技術で、未来に挑む。

私たち安藤ハザマは、確かな技術と豊富な経験・ノウハウをもとに、
安全・安心で、高品質なもののづくりを実践し、さまざまな形で人々の暮らしを支えています。
これからも、社員一人ひとりの情熱と、時代に先駆けた技術力を掛け合わせ、
新たな価値を創造し、豊かな未来の実現に挑戦し続けます。

株式会社 安藤・間

東京都港区赤坂六丁目1番20号 TEL: 03-6234-3600(代表)
<http://www.ad-hzm.co.jp/>

社会インフラの維持管理のポイント



わが国の人口ピラミッドの変遷 (国立社会保障・人口問題研究所ホームページより)

日米の人口比較(概数)

米国		日本	
西暦	人口	西暦	人口
1930年	1億2000万人	1960年	9400万人
1980年	2億3000万人	2010年	1億2800万人
2000年	2億8000万人	2030年	1億1600万人

2012年12月の中央
自動車道笹子トンネルの
天井落下事故を受け
時代が到来するかの如く

「荒廃する日本」を 防げるか

中央自動車道笹子トンネル天井落下事故を契機に、社会インフラの維持管理に関する国民の関心が高まっている。これを受けて、国土交通省や土木学会では老朽化対策や長寿命化計画など、維持管理に関する議論が積極的に行われている。ここでは、社会インフラを取り巻く現状とこれからのわが国の社会・経済情勢の変化も踏まえて、今後維持管理を推進していくためのポイントとして、定期点検の重要性、技術開発と人材育成の推進について、港湾での取り組み事例を交えて私見を述べる。

東京工業大学大学院
土木工学専攻 教授 理工学研究科

いわなみ
岩波

みつやす
光保

建設産業

「荒廃する日本」を
防げるか

報じられている。これは「荒廃する日本」の原因となった社会インフラの年齢が、わが国で高度成長期に大量に整備された社会インフラの年齢と近いことである。米国は1980年代以降、社会インフラの維持管理に国を挙げて取り組んだことであらう。わが国は「荒廃」を防ぐことができるのか、この問題を考える時わが国と米国の間には決定的な違いがある。それは国の人口である。人口は国力を表す重要な要素の一つであり、労働力や経済力を大きく左右する。米国では「荒廃」が騒がれた後の20年間で人口が5000万人も増加している。一方わが国の人口は今後20年間で減少することが予測されている。

この問題を考える時わが国と米国の間には決定的な違いがある。それは国の人口である。人口は国力を表す重要な要素の一つであり、労働力や経済力を大きく左右する。米国では「荒廃」が騒がれた後の20年間で人口が5000万人も増加している。一方わが国の人口は今後20年間で減少することが予測されている。

（次ページに続く）

防災のトビシマ 建ててから始まる真のお付き合い

防災のトビシマ

豊富な経験と技術力を生かし、
安全で安心な社会づくりに貢献します。



飛島建設

本社/神奈川県川崎市高津区坂戸三丁目2番1号
〒213-0012 TEL.044(829)6750
<http://www.tobishima.co.jp>

「建設品質」

佐藤工業は1862年に創業。
これまで「建設品質」をキーワードとして、
安心・安全で快適な空間の創造、
良質な社会基盤の整備に
取り組んでまいりました。
その長い歴史の中で脈々と
受け継がれてきたのは、
確かな技術と情熱に裏打ちされた、
建設人としての誇りと使命感です。
これからは、
夢のある未来社会の実現に向けて、
時代とともに歩み続け、
豊かな地球環境を築くため、
さらなる飛躍をめざしてまいります。

— 総合建設業 / 創業1862年 —
佐藤工業株式会社
<http://www.satokogyo.co.jp>